

# クラシック×ジャズ＝クラジャズ!?

山西さんはジョリフォレの立ち上げメンバーであり、現在まで9年間続けて活動している。担当の楽器はアルトサクソフーン。楽器との出会いは高校2年生のときで、「友達に誘われて吹奏楽部に入りハマってしまっ」と山西さん。初めはクラリネット担当、マウスピースだけの練習をしていました。サクソに空きができて、先生が「誰かやりたい人はいないか?」と言ったので、「かっよよくていいじゃん」と思い、手を挙げました。いざとぐにコンクールと野球応援があったため、必死になって一か月くらいでサックソを覚えました。ピアノを習っていたので楽譜は読めたのと初心者だから周りの人が親切に教えてくれたからできたのだと思います」と山西さんは話します。

9月2日(日)と10月6日(土)の二回、これまでみのもちや箱コンサートにいた、これまでにのりえに「クラシックジャズinみのもちや」の企画が実現。今回はアマチュアとプロが共演。一回目は観客も参加して手作りマラカスでサソバの曲を合奏する。手作りマラカスはガチャガチャの容器で作った。ガチャガチャの容器は市内の幼稚園と

## クラジャズは音のおもちや箱

保育園に回収箱を設置し、回収にご協力いただいたおかげで、たくさん集めることができた。容器の中にはコーヒードラムが入っている。コーヒードラムは豆を厳選しているお店から分けていただいた。ガチャガチャ容器が小さい物だと高い音がでる。例えるなら木管楽器と同じ。ソプラノサクソフーンは高い音バリトンサクソフーンは子どもの背の高さほどあって低い音が出る。手作りのマラカスは、使い終わったらもう一度マラカスとして音をだしてもいい。コーヒードラムを挽いて飲んでもらってもいい。何かしら楽しい思い出ができたらいいなと思います」と山西さん。

今回の企画をするときにアマチュア出演者をオーディションで選ぶとしたが、プロのピアニストである佐山雅弘さんから「アマチュアならジョリフォレでもいいんじゃない?」と言われた。ビックリしながらもプロとの共演はなかなかできることではないというところで、ジョリフォレの出演に賛同した。今までのジョリフォレは有料公演をしたことがありません。現在、プロのオーディオストとの共演に向けて一生懸命練習しています。無料でも有料でも完成度の高いステージを目指すブレッシュャーはありますね」と山西さんは笑う。

また、9月2日公演のときには、

暑い日が続く中、暦の上では立秋をむかえた。日中は賑やかなセミの鳴き声が響き、夜は虫の鳴き声が聞こえるようになってきた。ピンクや白の百日紅(さるすべり)が大きく枝を広げて咲いている。この花は金平糖のように可愛らしい花ですね。この時期、夏の疲れが出てくるころです。体調管理に気を付けてください。今回は、みのもちや10歳記念事業ガラコンサートの実行委員で楽団四季『ジョリフォレストジャズオーケストラ』(通称ジョリフォレ)のメンバーでもある花館地区にお住まいの山西さおりさん取材する。



みのもちや10歳記念事業実行委員会 公演部(ガラコン)メンバー

## 山西 さおりさん

「みのもちやは仲間がいる場所。自分が落ち着ける場所」と語る山西さん。

みのもちやと共に生活するスタイル

# Minole Life

## のすすめ

No.62

プロのサクソフーン奏者である宮本大路さんと山西さんとのソロ対決がある。「実は、宮本大路さんは私の師匠なんです。東京の先生の自宅までレッスンを受けに通っています。笠間の陶炎祭で宮本さんの演奏と白いサクソフーンに衝撃を受け、すぐにインターネットで検索してみました。宮本さんのホームページ内に「生徒募集」の文字を見つけ、すぐにメールしたら『ぜひ来てください』と返信がきました。それが宮本さんとのお出会いです。サクソフーンはマウスピースやリードなどを交換するだけで音が変わってしまう。とても悩んでいたときにちょうど宮本さんと出会えた。宮本さんが選んでくれた6本のマウスピースの中から一つ選んだのですが、それがびくびくするくらいピツタリで、もう目からうるさくて泣いた。一回しか会ったことがなかったのにさすがプロだなって思いました」と山西さん。

「夢はおはあさんになるまでサクソフーンを吹くこと。今回のガラコンも、偶然とはいえ、いただいたプロとの共演という機会を緊張しつつも楽しみたいと思います」と語ってくれた。

みのもちやのおもちや箱コンサートには楽しい企画と素晴らしい音楽が満載です。皆さんのご来館を心よりお待ちしております。

(藤田 佐知子)